



MIFA NEWS

No. 37

9/30, 2003

Moriya International Friendship Association

守谷市国際交流協会広報委員会発行

事務局 住所：守谷市大柏950-1

電話：0297-45-1111

URL: <http://www.fureai.or.jp/~mifa>



4月22日、姉妹都市締結10周年記念式典であいさつするデビー・ピルチ・グリーリー市議

2003年度（平成15年度）4月～8月の主な活動

- 4.11 英会話初級クラス開講
- 4.14 ドイツ語サークル開講
- 4.17 エンジョイ・イングリッシュ開講
- 4.18～24 グリーリー市高校生ホームステイ
- 4.20 グリーリー市民と交流バスツアー（日光）
- 4.22 グリーリー市姉妹都市締結10周年記念式典・記念パーティー
- 4.29 理事会
- 5.12 中国語講座Aクラス（前期）開講
- 5.14 第26回ボランティア日本語講座開講
- 5.18 MIFA総会
- 5.18 報告会「青年海外協力隊に参加して」
- 6. 8 青年交流委員会・アヤメ祭りに参加

- 6.10 MIFAニューズレターNO36発行（全戸配布）
- 7. 7 茨城県国際交流ネットワーク会議参加
- 7.13 MIFAサロン タイ文化に触れる
- 7.16 第26回ボランティア日本語講座修了式
- 7.26 中国語講座開講
- 7.27 第1回MIFAフェスタスタッフ会議
- 7.27～8. 7 第14回守谷市青少年海外派遣
- 7.30 MIFA専用倉庫を公園内に設置
- 8.17 海外派遣事業団員及び引率者帰国報告会
- 8.23・24 青年交流委員会・北守谷団地夏祭りに参加
- 8.23・24 第1回国際交流協力実践者全国会議2003に参加
- 8.31 第2回MIFAフェスタスタッフ会議

守谷市青少年海外派遣1期生

佐々木妙、恩返しの旅にでる!

第14回守谷市青少年海外派遣が7月27日から8月7日まで行われました。

その引率者に、国際交流協会会員の佐々木妙さんが選ばれましたが、佐々木さんは、今から14年前に行われた第1期海外派遣の団員として参加していました。その時はアメリカ、今回はドイツと行き先は違いますが、団員、引率者として異なる立場でこの事業に参加した第1号になります。

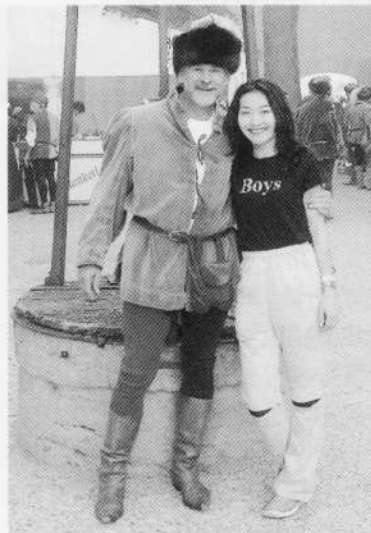
海外派遣に参加した団員たちももう社会人になり、引率者となってもおかしくない年齢になっています。

佐々木さんに寄稿いただきました。

私の10代の一番の思い出は、なんと言っても第1回守谷町海外派遣事業の24名の団員のひとりとして、アメリカを訪れたことです。当時の海外派遣は、国際交流に対する熱意を推し量るべく、作文と面接でその団員の選考を行っていたため、それはそれはユニークな集団になったことは言うまでもなく、今でもその仲間たちとは年に一度は集まり、楽しいお酒を飲んでます。

勉強の出来、不出来ではなく、国際交流への情熱そのものが評価され、守谷の代表として派遣されたという事実は、その後、私が人生を歩む上で大きな自信となりました。お世話になった守谷市や生意気盛りの私達の面倒を見てくださった1期の団長である小川会長をはじめとする随行員の方々に恩返しをしたいな、という漠然とした願いは、私が守谷市の職員として働く機会を得たことで一気に現実となりました。

それは、市がマインブルグへ中高生を引率していく職員の公募を市役所内で行ったからです。私はすぐに立候補し、それが承認された時、「間違ふこと、新しいものに挑戦することを恐れずに、国際交流を楽しもう!」と、今年の派遣団員たちに私の姿を通して伝えていきたいと思いました。



ランツウッドの中世を再現したお祭り



モニカ（左、私のホストファミリーです）とベッティーナと。2人とも昨夏、守谷を訪れています。

当初、随行員は3泊のみのホームステイの予定でしたが、マインブルグ入りしてから、ホストと相談の上、そのご好意に甘え、中高生と同じく、7泊のステイに延長。できる限り私自身もマインブルグの人々と交わり、笑顔で生活する中で、子どもたちにも自然体の国際交流の楽しさを感じとってもらおうように心がけました。

言葉がうまくでないばかりにホストとうまくコミュニケーションがとれていない状況があった時には、ホストの高校生と友達感覚のおしゃべりの中で（私はドイツでは実年齢よりかなり若く見られていたのが幸いでした）「悪いわね〜。でもその子は〇〇と思っているみたいだから大丈夫よ。私からもちょっと言っておくわ」と伝えて円滑にステイが続けられるようにフォローしたりしました。

ベルリン、プレーメンの観光でホテル泊の夜は、私も1期生で派遣された時には夜中まで騒いでいたなあ…という経験を踏まえ、夜の各部屋見回りを敢行!…と言えば聞こえはいいのですが、子どもたちの部屋におじゃまして、私がルームサービスでお湯を注文し、貴重な味噌汁とラーメンの夜食をみんなで分け合って食べて、「やっぱり味噌汁は落ち着く〜」とおしゃべりに花を咲かせたことも良い思い出。

一緒にマインブルグへ行った子どもたちに望むことは、「これからいい仲間でき続けてほしい」「何らかのかたちで国際交流に参加し続けてほしい」ということ。

私のように、いつか随行員にも挑戦してみてね。大変だけど、やみつきになる面白さがありますから…。

第1回 国際交流協力実践者全国会議 2003

「地域と社会に根ざした国際交流・協力活動への変革を目指して」 ～グローバル時代の国際交流協会の将来展望～

8月23日・24日、東京で第1回国際交流協力実践者全国会議が行われました。

この会議は、企画・運営もボランティア、参加した実践者も個人の意志で参加してもらう会議とした点で、これまでに前例がない会議でした。

また、政府レベルでの活動を行っている4団体の協力を得て実施されており、政府レベルと草の根レベルの連携協力の可能性を探る会議でもありました。

MIFAからは私を含め二人が参加し、茨城県からはほかにも県国際交流協会から1人の参加がありました。

以下、ご報告します。

笠原岳夫

期日…2003年8月23日（土）～24日（日）
会場…国際協力事業団東京国際センター（TIC）
参加者…全国の国際交流の担当者が103人および講師・実行委員・スタッフ関係者が63人、計166人
主催…国際交流協力実践者全国会議実行委員会
協力…国際協力銀行（JBIC）、国際協力事業団（JICA）、国際交流基金、（財）自治体国際化協会（CLAIR）
助成…国際協力銀行、国際協力事業団、国際交流基金、（この団体が諸経費の一部を補助）
後援…開発教育協会、関西国際交流団体協議会、国際協力NGOセンター

この会議は、全国の「国際交流・協力活動」の実践者が一堂に集い、活動の現状認識を共有し、問題意識を深め、参加者の間で顔の見えるネットワークの構築と、現在の日本社会に於いてこの活動の意義を広くアピールし前進をさせることを目的として実施された。この会議は有志が実行委員となって運営されており、当面は第3回までの開催が計画されている。初回は参加者が情報交換をし問題点を共有する事を目的とした。

全体会議「国際協力セミナー」の概要

「市民主体の国際協力を考える～政府機関、NGOとの連携と多様なアプローチ」（テーマは「市民団体の国際協力とは何か」）

市民の国際協力は現地の活動だけでなく、国内においても、現場の持つリアリティを伝え、感じあう「共鳴」のベクトルがある。「現地活動」「国内の共鳴活動」の両方の循環の中で、初めて市民らしい活動が展開できる。そのためにODA機関ができる事とは何か、理想

の連携とは、NGOは、理想の連携は、などの基調講演があった。

茨城県では、国際交流の組織を持つ自治体は全自治体の約半数であり、その国際交流組織においても、未だ地域の外国人との交流・共生や日本語教育・姉妹都市交流程度が精一杯の組織が多いと推定する。しかし最初の全体会議から、いきなり「市民主体の国際協力」の話であった。日本がODAを実施しなければならない論は此処では省略するが、そのODAは、より市民ペースでの実施が必要となっている。この趣旨に沿ってJICAでもJBICでもその他のODA実施機関でも市民参加のODAプログラム（即ち資金）をいろいろ準備している。MIFAでは、まさにこの項目に該当するJICAの地域提案型の草の根協力事業を実施しようとしている。この実施例として、特定非営利活動法人ACTIONの横田代表の話があった。（ネットの検索はACTIONで出るので、彼らの活動をご参照ください）

パネルディスカッション分科会…「国際交流協会生き残りのための処方箋」の分科会に参加した。茨城県は、国際交流に関してはまだまだ後進県なので、生き残りを考えなければならないほどの問題が発生する以前であり、資金的にもリストラが考えられるほどこの事業に投入されていない。先進地域では、NPOやNGOとの競合やすみ分けの問題、姉妹都市不要論などが出ている。また国際交流関連組織がリストラの対象になったりもしている。

スキルアップ実践講座…予算がなくてもここまで出来る、国際交流協会の事業実践のための資金源など。各種の団体が各種の資金を準備している。

フリーディスカッション…この種の交流は個人的な交友ネットワークを広げるために良いチャンスである。かなり多くの方々と交流を楽しみ、教えられる事が多かった。例えば、ある団体は、子供達の大統領訪問を実施し効果を上げている。私は、昨年、エチオピア大使館に行った時、中学生が大使館訪問をしているのを見て、ボーイスカウトを大使館に連れていこうと思ったことを思い出した。実行している団体があることがわかっただけでも収穫である。茨城県では、まだ利用の例は少ないと思うが、この会議の「協力団体」は主としてODAの資金で市民活動の支援を幅広く行っている。私たちもこれらのスキームをよく調べて、地域の青少年の育成などのための国際交流・協力・協働活動に利用していきたいと思う。

青年交流委員会の初仕事 ダーツで資金集め



6月8日に行われたアヤメ祭りと8月23・24日に行われた北守谷団地夏祭りに、青年交流委員会が出店しました。



青年交流委員会は、スリランカの子どもたちへの就学資金援助活動を行っている会の会員になり、援助活動の一翼を担っています。また、ラオスの子どもたちとの交流を行うため、メンバーを現地に派遣する活動も行っています。

昨年までは、大人の手を借りて物品を集めバザーを行い、その売り上げを送金していましたが、今年からは組織・名称も変わり、成人になった旧学生委員会のメンバーの協力の下、「自分たちだけの手で行える活動を」を合い言葉に、ダーツで参加。売り上げも上々で、「当分の資金のメドがついた」そうです。

～編集後記～

MIFA設立15年。

時の流れを感じさせる出来事二つ。

学生委員会が青年交流委員会に衣替え。若者の感性で新たな活動を模索するようになったこと。

第1回海外派遣の団員だった佐々木さんが、今度は引率者として派遣事業に参加したこと。

時代というのは変わらないようでいて、その実、少しずつ変化しているのだと実感しました。言葉だけが先行し、実体が伴っていないようにも感じられた国際化も間違いなく進んでいます。

地球市民の一員として、今何ができるのかが問われているのだと改めて思う今日この頃です。

MIFAサロン タイの文化を知る



7月13日、MIFAサロンが、ログハウスで行われました。参加者は61人でした。

今回は、タイ出身の千葉アーパーマンさんとその友人からタイについての説明があり、その後、あいさつの言葉やタイ舞踊のフォームを教えていただきました。

また、持参してくれたタイカレーに入っている香草類の説明の後、実際に甘口、辛口のタイカレー2種類を試食するなど、タイの食文化の一端に触れることができました。タイ料理には独特の香辛料が使われていて、暑い国タイを彷彿することができました。

お茶を飲みながらおしゃべりをする人、タイの踊りを習う人の輪ができるなど楽しいひとときを過ごすことができ、サロンも定着した感があります。



2003年度専門委員会委員長

総務委員会	久保 昌也	☎45-4390
都市交流委員会	尾崎 和恵	☎48-8393
語学研修委員会	竹下 明子	☎46-2150
広報委員会	小野 泉	☎48-3917
ログハウス委員会	吉田 篤子	☎45-2375
青年交流委員会	島田 紅生	☎45-7349
日本語講座委員会	根本ひとみ	☎45-1569

会費納入はお済みですか…

平成15年度の会費をまだお支払いされていない方は、国際交流協会事務局（守谷市役所くらしの支援課内）へ持参するか、常陽銀行守谷支店 普通口座 6255915 守谷市国際交流協会 会長 小川 一成へ ※便利な口座振替もあります。詳しくは国際交流協会事務局（☎0297-45-1111）へ